

国指定史跡

知念グスク

Chinen Gusuku Ruins

ちねねんもりぐすく
あまみきよが
のだてはぢめのぐすく
又ぢやくにもりぐすく

南城市教育委員会文化課

沖縄県南城市佐敷字新里1870番地
TEL098-917-5374 FAX098-917-5436

知念グスクミニガイド

Guide to Chinen Gusuku Ruins

知念按司の墓



丘陵の崖下にある窪みを利用した掘込墓であり、前面を野面積で積み上げています。参道からの階段を上ると整地された前庭があり、墓内には石棺が安置されています。知念按司とその家族が葬られていますといわれています。

知念大川

現在、集落での祭祀は行われていませんが、各門中が旧暦1月1日の「初水御願」を行うほか、県内各地から東御廻り（あがりまーい）等で多くの方が訪れています。



ウファカル



知念グスクの西方にある拝所。知念按司の墓がある丘陵の中腹にある湿地帯。『中山世鑑』（ちゅうざんせかん）に稲作発祥の地「知念大川ノ後」として記されている場所であり、現在水田跡が残っています。

知念グスク



知念グスクの変遷

知念グスクは、沖縄の中でも特に古いグスクとして知られています。琉球の古い謡をまとめた『おもろそうし』では、琉球開びやく神アマミクが最初に祈った城として謡われています。琉球開びやく神話に現れた知念グスクは、400年程前に知名グスクから移り住んだ知念按司の居城になったと伝わっており、その後、知念番所・知念小学校として利用されました。

知念グスクの構造

知念グスクは、クーグスク（古城）・ミーグスク（新城）と呼ばれる2つの郭で構成されています。クーグスクは正門左側の鬱蒼（うっそう）とした木々の中にあり、高さ1～2mの野面積の城壁が巡り、東側は絶壁となっています。ミーグスクは正門がある郭で、切石積の城壁が巡っています。クーグスク・ミーグスクと呼ばれるようにクーグスクが古い石積技法で、ミーグスクが新しい石積技法で造られていることから、クーグスクが古く、ミーグスクが新しいとされています。その一方で、石積全体の造り方をみると、建設時の前後差がみられないことから、両者が同時期に造られたとする考え方もあります。

知念ノロ屋敷跡



グスク内の祭祀を執り行っていた知念ノロの屋敷跡。グスク内の祭祀は知念ノロと波田真ノロが行っていた。また、琉球王国の最高神女である「聞得大君（きこえおおきみ）」の就任儀礼「御新下り（おあらおり）」も久手堅ノロと共に執り行っていました。

